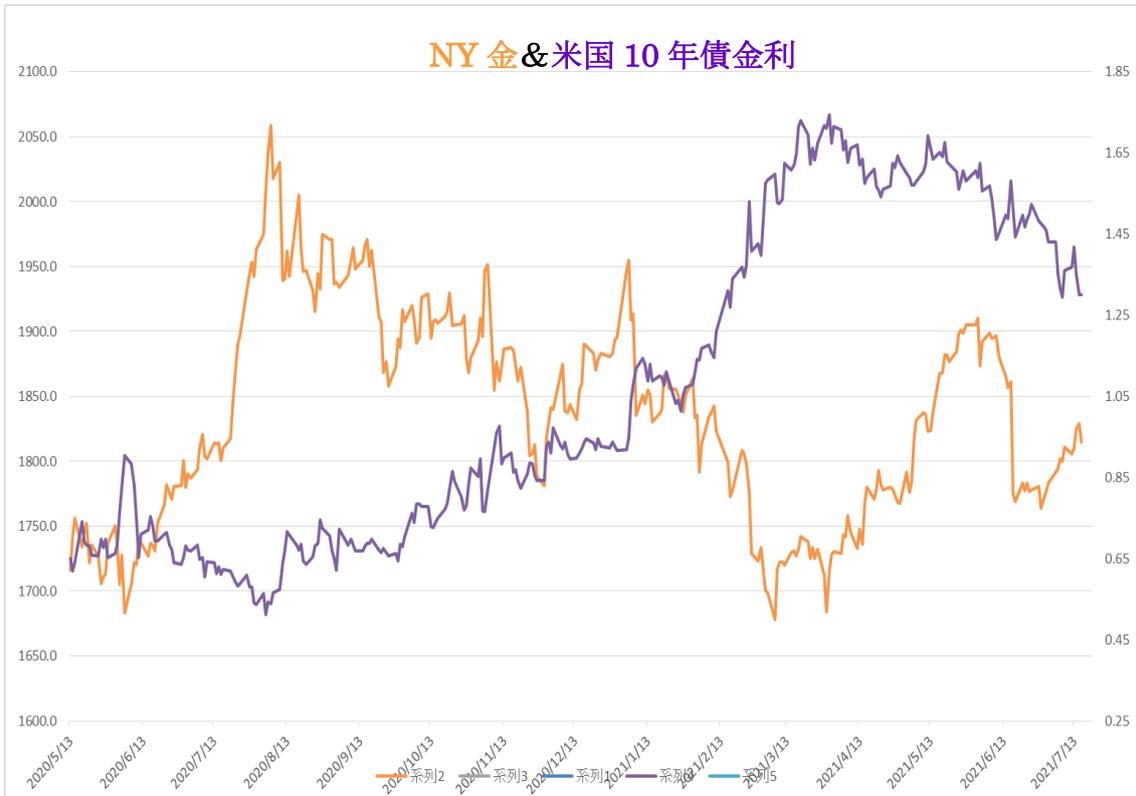


<金標準、長期金利の下げ止まり感から下値模索の様相>



(出所：岡地)

中国人民銀行の市中銀行に対する預金準備率の0.5%の引き下げ発表や、パウエルFRB議長の半期に一度の「金融政策について」の議会証言などを受けて、金標準先物は一時6479円まで高値を試している。

しかし消費者物価指数が事前予想の0.6%を上回る0.9%となり、小売売上高でも事前予想の-0.3%を上回る0.6%となるなど、尽く経済指標の改善が示された事から、テーパリングの話題性が高まりを見せだしている。

特にチャートで示すNY金と米国10年物金利の関連性では、反比例する動きを見せる事から、長期金利低下に合わせてNY金は上昇している。しかし記載した様に先週に発表された経済指標の好転から、7月27日、28日に開催されるFOMCでは、更なるテーパリングの協議が活発化する可能性は高く、10年物国債金利は1.3%以下で下げ止まりを見せるとNY金も1835ドルで高値追いが止まっている。

そのため今週の金標準先物は、戻り売りの様相が強まる値動きが予想され、6430円以上は売り狙いで対応するのが妥当に思える。ただ6350円以下は下値抵抗に合う可能性が示されており、6430円と6350円の逆張り相場が予想される。

(2021年7月18日記載)